

平成26年度

愛知県地域婦人団体  
活動事例発表大会



と き 平成27年1月29日(木)  
と ころ 愛知県女性総合センター

主催 愛知県地域婦人団体連絡協議会  
後援 愛知県・愛知県教育委員会

## 楽しく学んだ事をおすそわけ！ ～循環型社会を次世代へ～

大府市地域婦人団体連絡協議会 吉田婦人会

今年度は地域に密着した活動続ける吉田婦人会（以下「婦人会」という。）として、地域に貢献することと環境社会をテーマにしました。これまで婦人会は、地域密着で積極的な活動を続けており、その活動の勢いはどの団体にも負けていないと自負しております。そんな婦人会も地域の方々の支えがあつてのことであり、何か恩返しをしたいと考えました。また、近年はアスパ作りなどの活動を通して、環境を強く意識をして活動をしており、自分達で環境問題に対して、何か発信をしていく事を目標としました。

具体的には、例年行っている地域の高齢者を招待する『お招き会』で地域の食材を使い、手作りのおもてなしをすること。新たに学んだ無添加のお菓子を地区の親子と一緒に作る『食育教室』を開催し、地域のつながりを作り、一緒に循環型の環境社会を体験すること。2つの行事等から出た生ごみを肥料にし、『土作りと寄せ植え』を行い、循環型の環境社会を実践し、広めていくことを計画しました。

『お招き会』は、20年以上続く婦人会の恒例行事です。毎年行っている行事ですが、例年にとらわれることなく、企画段階から自治区や民生委員と協力して開催の準備を行いました。民生委員の協力で、あまり外出をしたがらない高齢者などに声をかけてもらい、地域の参加希望者を募りました。案内状を作成し、22名の参加希望者には直接ご自宅を訪問することで、顔を合わせてお話することが出来ました。前日までに地産地消での手作り料理のメニューを考えたり、おみやげとしてプレゼントするアクリルタワシや牛乳パックを加工したペン立て等を、受け取った方が、少しでも環境社会のことを意識してもらえたらと願い、婦人会員で協力して作成をしました。開催当日は、事前に考えた料理を、婦人会全員で準備しました。食べやすいこと、鮮やかで目でも楽しめることなど食事をされる方の事を考えながら調理を行いました。実際においしいと喜ばれ、残さず食べてもらえたことは、非常にうれしく感じました。また食事だけでなく、簡単なゲームを行ったりして、参加者全員でふれあい、会場は暖かい雰囲気になりました。後日、この『お招き会』について開催を企画した団体同士で各自、約



7分間の発表を行い、意見交換をしました。民生委員の方が、参加者のご自宅に訪問した際に『お招き会』のことについて嬉しそうに話してくれたとの発言に、今後も継続して行っていこうと意欲が湧いてきました。

『食育教室』では、事前に講師から学んだ無添加のお菓子を地区の親子と一緒に作り、新たな地域のつながりを作ること、そして一緒に循環型の環境社会を体験することを目指しました。地域で参加者を募集したところ、幼児から中学生までの子どもとその親の18名の申込みがありました。普段、幼児や中学生とはふれあいを持つことが少ないので、良いきっかけが出来るのではないかと感じました。当日は全員エプロン持参で、ゼリーやケーキを作りました。皆一生懸命に取り組んでおり、とくに、親がちいさな子どもに手を添えて作っている姿は微笑ましい限りでした。また、この教室で出た生ゴミと各家庭で出た生ごみを持ち寄り、肥料作りも体験してもらいました。

そして、作成した肥料を使って、はつか大根を栽培しました。大変良い肥料になったようで、小さくてもいろどりの良い大根に育ちました。みんなで試食をしましたが、甘味があり、満足気な顔が広がりました。収穫したはつか大根は、食育教室に参加した親子全員におすそわけしました。自分達で作った肥料を使って作られたことに、驚いていました。今後、子どもたちには、今回の体験を通して、少しでも環境社会に興味を持ってもらい、将来何かしらの活動を通して、さらに次世代へと繋げていって欲しいと思います。

『土作りと寄せ植え』では、行事等から出た生ごみから作った肥料を基に土作りを行い、寄せ植えを作りました。土作りでは、専門の方から、有機質の良い肥料と土になったとの評価をもらいました。また、この活動を知ってもらうために、作った土を使って寄せ植えを作り、公民館まつりに展示しました。講師に習いながら、各々個性のある寄せ植えができました。公民館まつりでの展示は、多くの人の目にふれ、私たちの活動状況とともに、循環型の環境社会のことが、多少なりともPR出来たと思います。



現在、婦人会では、今年度行ってきたことを、今後も継続し発展させて行くために、活動を続けています。婦人会の活動を見てくれていた有志の方からチューリップの球根を頂きました。作った肥料を使って、地域活動の核となっている公民館にたくさんのチューリップを植えました。きれいな花が芽吹いた時は、地域の多くの方の目を楽しませることでしょう。さらに、新しい球根が出来たら、地域におすそわけして行きたいと考えています。いつか、この地域にたくさんの花が咲きほこるとともに、循環型の社会活動が広がって行くように、今後も継続して活動を行ってまいります。(米光 律子)

## 「祖先からの遺産を守り次代につなぎたいパートⅢ」 &環境美化活動

津島市女性の会

今年の春の尾張津島藤まつり（以下、藤まつり）、夏の尾張津島天王祭（以下天王祭）、秋の尾張津島秋まつり（以下、秋まつり）も無事終わりました。これらの祭りは長い間受け継がれている津島の誇りです。

私たち、津島市女性の会は、地域に愛着と誇りを持ち、地域の魅力をさらに広げること  
に喜びを感じ、その思いを多くの人と共有し、次代につなげる活動を目指しています。

昨年、名古屋で天王祭のPR活動を2日間行ったのですが、まだまだ知名度が低いなあ  
と感じましたので、本年度も引き続き、若い人たちを巻き込んで、自分たちの住む街もま  
つりにもっともっと関心を持ってもらえるよう「祖先からの遺産を守り次代につなぎたい  
パートⅢ」&環境美化活動に取り組みました。

津島市女性の会では、天王川公園の藤棚を中心とした尾張津島藤まつりにも10年以上  
出店し、実行委員会の一員としても協力しています。来場者の方に、買い物や飲食のでき  
る賑わいの場所を提供し、おもてなしの心でメンバー一丸となって盛り上げています。

藤まつりの会場では、大量に出るごみの処理のため、分別用の回収箱が回収ステーションに置いてあり、各メンバーがごみ袋にまとめたものをリヤカーで、別にあるごみ集積場まで運びます。来場者の方も、自分たちの出したごみを回収ステーションまで持ってきてくださるので、会場内はとてもきれいで  
す。本当にマナーが良くなりました。



また、天王まつりについては、PR活動を2日間名古屋で行う計画を立てていましたが、  
市からの要請もあり共同で実施することになりました。この活動には、藤まつりでも評判  
の良かった高校生ボランティアにも、昨年に引き続き協力をお願いすることにしました。  
また「PR活動のあとで、高校生と反省会を開いたらどうだろう。」との意見がありました  
ので、反省会を開き、PR活動の感想や、郷土の歴史、まつりについての考えを聞いて、  
私たちの事業に役立てることにしました。

7月5日、金山駅、7月6日名古屋駅西口でPR活動。PR活動の前には駅前の美化活  
動もしっかりしました。2日間で20名のボランティア協力が得られました。津島の公式  
キャラクターつし丸の着ぐるみを「ぜひ着てみたい」と3人も申し出てくれたので、体験

## <尾北ブロック>



してもらいました。一生懸命手を振って、愛嬌を振りまいたり、記念写真に収まったりと楽しい PR 活動でした。着ぐるみを着た感想を聞いてみたら、「おもったより重くて窮屈だったし、大汗をかいたよ！」と言いながら、まんざらでもなさそうでした。

9月11日には反省会を行いました、勉強や部活動で忙しいなか授業を終えた高

校生たちが会場に来てくれました。ホッとしました。というのは、9月1日の予定が、台風で延期になっていたからです。顔を覚えている高校生を見たらうれしくなり「ひさしぶりだね！」と言うと照れくさそうに笑ってくれました。お茶やジュース、ケーキをいただきながら、「自分から進んで PR 活動に参加した。」とか「就活に役立つかなあ。」「また来年も参加するよ。」とワイワイおしゃべり。その後でアンケートをお願いしました。特にその中で「PR 活動を通して挨拶することの大切さや、PR することの難しさ、興味を示して立ち止まってくれる方たちに対して喜びや嬉しさを感じることができた。」とありました。本当に感動しました。他にも、「天王祭や津島の情報を詳しく知り、それをもっと多くの人たちに知ってもらいたいから、次回も PR 活動に声をかけてください。」「同じ世代の人にもっと PR したかった。」「もっとネットを活用しよう！」「津島をもっと活性化させたい！その気持ちで着ぐるみを着た。」「おばさんたち優しかった。また来年反省会やってね。参加するよ。」等が書いてありました。



中心市街地の空洞化や、核家族、地域のつながりの希薄化で、伝統文化を伝えていくことが困難となり、伝統文化や行事が失われつつありますが、私たちは、若い人たちに郷土の歴史や文化遺産への関心をもっと深めてもらうための活動と、環境美化活動に取り組みました。若い人たちに文化遺産の素晴らしさを知ってもらうことに微力ながら貢献できたと思います。

まだまだ事業の途中ですが、地域に愛着と誇りを感じ、市や地域に関わる人たちと共に活動していきます。

(渡辺 康子)

## 愛する わが町！ ～ ピッカ 美化活動 ～

稲沢市連合婦人会 西町婦人会

稲沢市は平成17年度、1万本の銀杏の木で知られる祖父江町と平和町の1市2町が、合併し現在の稲沢市になりました。天下の奇祭国府宮はだか祭りと、植木・苗木で知られる緑豊かなところです。稲沢は、かつて美濃路が通り、稲葉宿が置かれていた昔の風情がまだまだ街並みに残っており、稲沢市に唯一現存する赤いポストが築150年の旧家で守られています。時代の流れと共に町の整備も進み新しく生まれ変わってきています。

私たち婦人は、伝統あるこの町を地域の人たちと協力して、「愛する わが町！」ピッカ 美化にしたいと立ち上がりました。

### ー 活動内容 ー

#### 1. ゴキブリ団子作り

ゴキブリが繁殖する梅雨の時期を前に、ゴキブリの完全駆除を目指して毎年実行しています。会員の皆さんからは「ここ数年ゴキブリを見ないわ!」と言われる程効果てきめん。材料は、硼酸・小麦粉・玉葱・砂糖・牛乳を混ぜ合わせて作ります。団子は区の会場と、公共施設の社会福祉会館へも届けています。特に会館には調理実習室があり、衛生面に気を配っている職員の方に大変喜ばれています。町内からゴキブリが見事に一掃される優れたものの魔法の団子です。これで家の中も“ピッカ 美化”になります。

#### 2. かなしんでん公園を憩いの場に

今年の4月にオープン。町の北西に位置し、カラフルな滑り台等が設置されていますが、公園の周りは草が伸び放題。西町にある公園なので市から委託を受け、各種団体が管理する事に決まりました。

“私たちの手でこの公園に命を吹き込もう！ 皆が憩える公園にしよう！”と立ち上がりました。先ず手始めにこの背丈ほどの雑草を刈り取る事です。暑い中、水分補給をしながら鎌で除草作業をしました。

次に計画した事は、この公園の入り口の3ヵ所に季節の花を植える事です。肥料入りの培養土・プランター等を揃え、種から育てている丈夫な苗屋を紹介して頂き、時期的にどんな花が適しているか、配色等検討し、プランターで24基作る事に決めました。

毎日の水遣りは、ローテーションを組んで当番制で行います。特に今夏は猛暑と豪雨と



## <尾北ブロック>

いう異常気象で花の咲き具合を心配しましたが、プランターからはみ出さんばかりに見事に育ってくれました。花と会話しながら愛情をたっぷり注いだ成果です。

綺麗になった公園では、子ども達の元気な声が聞こえ、キャッチボールをする親子、ギターを弾く若者の姿もあり、公園も花壇も生き活き“ピッカ 美化”になりました。

### 3. 金（こがね）神社と区会場の大掃除

伝統行事である金神社の例大祭が毎年10月15日に行われます。大祭を前に私たちは、神社の清掃、獅子飾りをする区会場の大掃除を行います。エアコンのフィルター洗浄、電灯の笠や建具のほこり払い、流し台、食器棚の整理整頓、食器の漂白、雨戸、網戸、ガラス戸磨き、カーテンの洗濯等。



綺麗に掃き清められた金神社の例大祭が3日間にわたって行われます。○1日目は幼稚園児の鼓笛隊、ハッピー姿の地元の子供も達がお神輿を担ぎ、総勢250人程がパレード ○2日目は前夜祭 笛太鼓保存会の参進行列 ○3日目は例大祭 3日間の祭事に婦人会も参加協力します。

また金神社では、旧の1月13日に国府宮はだか祭りに奉納する鏡餅をつきます。町挙げてのお祝いの中、大勢の人が餅つきに参加します。私たち婦人会は、餅つきの準備で前日の米洗いから、餅つき、鏡餅奉納まで参加協力をします。

神社の南側にはお地蔵様が6体並んでいます。1月と8月に地蔵尊法要が営まれ、読経が始まる頃には、大勢の子ども達が集まりお参りをします。会員さんの手作りによるお地蔵様の赤い帽子、よだれ掛けもこの時に新しくされ、お供えの花もいつも綺麗に飾られています。このように金神社は地元の氏神様として住民に大変親しまれています。

神社に隣接する啓成高校の寮の生徒さんも、授業の前に神社の清掃・かなしんでん公園の草取りをしてくれます。一日の始まりの「お早うございます！」の気持ちの良い学生さん達の挨拶に、私たちはとても心が爽やかに“ピッカ 美化”になります。

### おわりに

西町婦人会は戦後婦人参政権が制定された後の昭和23年に誕生したと聞いています。永い歴史の中で婦人の地位の向上や、地域の活性化に貢献し、その実績が尾張部や県で認められ、そうした先輩たちの輝かしい業績をもとに今の西町婦人会があります。

今回の活動を通して地域の皆様とより一層の固い連帯感が生まれ、皆様の優しい心に触れ、まさに「愛する わが町！」私達の誇りです。この絆を大切に地域に密着した活動を実践していきたいと思えます。「婦人会さーん お願いしまーす！」と、またもや声が「ハーイ！！」  
(平野 米子)



## “日本のさくら名所百選” 岩倉市の宝を市民の手で守ろう！

岩倉市婦人会

岩倉市の真ん中を南へ流れる五条川の兩岸約8kmに桜の木が植えられています。

この桜並木は、終戦間もない昭和22年（1947）に町おこしの話し合いがなされ、その中で「岩倉のまちに何か一つぐらいみんなが憩える場をつくろう」と話し合われ、その2年後に300本の桜の苗木が植えられました。それが始まりで現在では1,400本余りになっています。植えられてから60年も経つと桜の木も老齢化してきて、このままでは桜の花を楽しむ事が出来なくなってしまうのではないかという声上がり、市役所の商工農政課が中心になって桜並木を保存する取り組みが始まりました。

まず、樹木医さんをお願いして「桜の木を保存するにはどうしたらよいか」の勉強会と現地視察を行いました。

現在の五条川の桜の状態は、植えられている間隔が狭く、木の先端で枝と枝がからまった状態で日当たりが悪くなっており、枯れ枝が多く、太い幹も中が腐って倒れる寸前のももあると指摘されました。

何回も勉強会を重ね、桜の木の保全を目的とした保存会が立ち上がりました。婦人会も賛同し、一緒に桜の木を守っていくことにしました。

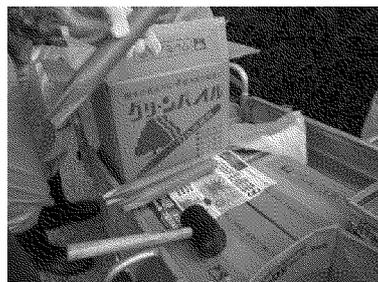
五条川の桜は殆んど「ソメイヨシノ」という種類です。ソメイヨシノの寿命は一般的には50～60年と言われています。しかし、青森県の弘前公園の桜は120年余りの現在も立派に花を咲かせています。手当の仕方次第で延命が可能であるという樹木医の言葉に励まされました。岩倉の桜も100年、200年と後世につなげていこうと“保全計画”を作成しました。

「桜の木一本一本の台帳を作る」「施肥をする」「枯れ枝、ひこばえ切りをする」「通行障害になる枝などの除去」「どうぶきの処理をする」等です。

6月、計画に従って施肥作業をしました。御礼肥えとしてグリーンパイルを1本の木に3～4本を幹から1メートルほど離れた所の地面に打ち込みます。

7月、8月、9月は、桜の木にナンバープレートを付けたり、枯れ枝切り、根元に生えている「べっこうだけ」

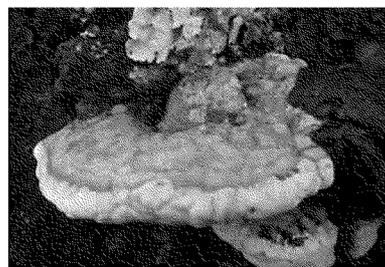
の駆除、どうぶき（幹から出ている細い枝のこと）の処理等の作業を行いました。



## <尾北ブロック>

ここで桜の木にとって最も怖い病原菌ベッコウタケについて少しお話をします。根の老化と共に土壤中の栄養分も不足がちとなり、免疫力も落ちて菌に侵される木が年々増えております。その中で伝染力と進行の速さで最も警戒をするのがベッコウタケです。この菌は、根や幹周りから侵入して芯を腐らせ空洞化させるのです。梅雨明けから夏にかけて、根や幹の地面近くに発生し、繁殖のため胞子を飛ばし増えていきます。

今年の夏も樹木医の先生の指導の下でベッコウタケに侵された木の治療に取り組みました。菌が炭の殺菌力に弱い点に着目し、腐った部分をバーナーで焼きもみ殻薫製炭を冬に詰めた木の検証もしました。結果は見事に成



ベッコウタケ

果が出ていました。焼き切った場所は菌がすべてなくなっていました。今年の冬も菌に侵された多くの木の治療をしたいと思っています。



このような取り組みがあつてこそ綺麗な桜の花が楽しめる事を広く市民の皆さんに知ってもらい、私たちの活動に参加してもらえるようにPRをしなければいけないと痛感しました。11月8・9日に市をあげて実施された「市民ふれあいまつり」の中でポスターを貼り、チラシを配りPR活動をする事が出来ましたが、PRだけでは次につなげることは難しいと思いました。大勢の市民への声掛けをし、関心を持っていただくことも大変でした。今後、桜保存会のメンバーと共に、行政も巻き込み一人でも多くの賛同者を取り込んで活動の輪を広げていきたいと思っています。

「桜の木の手入れも、人数が多ければ場所を分担して互いに競い合いながらできるね。」  
「小学生や中学生の皆さんにも声をかけたら、市民が本気になって守っていくことが長くきれいな桜と付き合えるのではないか。」など、反省会で活発な意見が出ました。

これらの活動が一過性の活動で終らず、持続可能な活動として長く取り組んでいくことがこれからの課題です。①婦人会、桜保存会、行政と共に市民へのPR ②小中学生への声掛け ③五条川沿いに住んでいる住民への声掛け。

また、一人でも多くの市民に「桜の木」について理解してもらうよう努力すると共に“岩倉市の宝を市民の手で守ろう”を合言葉に、保全活動に努め、次の世代までつなげていかなくてはと思っています。

岩倉の桜は永遠です！！

(寺澤 陽子)

## ECOの架け橋 ～EGOECO 家計簿にチャレンジ～

弥富市女性の会

「直ちに命を守る行動をとって下さい」

テレビやカーラジオから突然流れる特別警報。「警報」の発表基準をはるかに超える数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に、平成25年8月から「特別警報」が、発表されるようになりました。東日本大震災による津波や、平成23年の台風12号による紀伊半島を中心とする大雨では、甚大な被害が出ました。これらの災害において、気象庁は、警報や防災情報など重大な災害への警戒を呼びかけたものの、災害発生の危険性が十分に伝わらず、迅速な避難行動に結びつかないことがありました。気象庁では、この事実を重く受け止め、大規模な災害の発生が切迫していることを伝えるために、新たに「特別警報」を創設したのです。

私たちは、子どものころから「天災は忘れたころにやってくる」と教わりました。でも、近年では、各地で自然災害が頻発し、そのニュースが流れるたびに、その災害の規模や被害の大きさに驚くばかりです。ところが、頻発すれば逆に、避難指示にも感覚がマヒし、先人の教えも忘れてしまうのです。常に過去の教訓を忘れることなく「天災は必ずやってくる」と、しっかり心に受け止め、今を生きなくてはなりません。

弥富市女性の会では、EGOECO活動を続けてきましたが、いつしか役員の気持ちも惰性になり、かつての志も忘れかけていました。

そこで、将来、子どもたちや孫たちが、安心して幸せに暮らせる「持続可能な社会」のために、私たちが、今何をしたらよいか、もう一度、考えてみることにしました。

近年の異常気象は、地球温暖化が影響していると言われていています。地球温暖化は、私たちの生活の中から排出される二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)などが原因となっているのであれば、私たち主婦が、地球のためにできること。「まずは、節電！」

暮らしの中から出るCO<sub>2</sub>を減らそうと思ったら、いったいどれくらいCO<sub>2</sub>を出しているのか知ることが必要と、「EGOECO家計簿をつけよう！」との提案がありました。

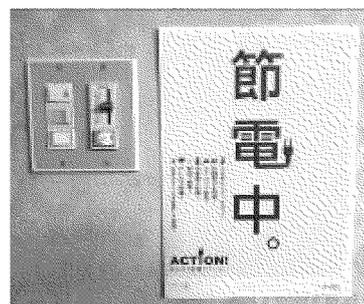
でも、家計簿と聞いただけで「面倒くさい」「続かない」と色々な反対意見が出ましたが、前向きに取り組むことが大切と、意見を出し合いました。

EGOECO家計簿には、私たちが継続できそうな節電メニューを掲げ、その日ごとに「できた」と思う節電メニュー欄に○をつけます。

## <尾北ブロック>

それぞれの節電メニューには、節電効果として削減率や削減電力の目安を掲載しました。その他、工夫したこと・実践したことの記入欄や反省欄も作りました。こだわりの表紙は、環境省の節電中の啓発チラシを利用しました。

さあ、みんなで節電アクション！の始まりです。それぞれが、冷蔵庫や照明スイッチの横に家計簿を貼りつけ、家族にも意識してもらうようにしました。



南向きの窓には「緑のカーテン」や「すだれ」を吊るし、夏の日差しを防ぎました。コンセントからプラグを抜いて、待機電力を減らす努力をしたり、打ち水と扇風機を併用したりと、他の人の工夫も参考になります。

1ヵ月後、一人の脱落者もなく、参加した役員全員がEGOECCO家計簿を提出。毎日の天気や気温まで記入しながら、その日の節電のメニューを考えた人もいて、生活スタイルも密接に関わってくるのを感じました。

EGOECCO家計簿の裏表紙には、「節電の成果を確認しよう！！」と、電気の検針票から、節電を意識した1ヶ月の使用量と前年同月の使用量を記入し、比較します。そして、節電の効果を記帳し確認できるようにしました。

家庭環境や家族構成など電気使用量は様々ですが、各家庭での削減率は、比較できます。平均マイナス2.4%。

目標の「チーム・マイナス6%」には、まだまだ遠い数字です。前年より、使用量が増えている家庭も半数近くありました。ちょうど、お盆の帰省の時期であったこと、来客が多かったこと、天候が不順だったことなどが考えられます。それぞれが、自分の家計簿を見て反省したり、工夫した事を教え合ったりしました。

検針票によっては、期間の違いがあったり、前年同月の記載がなかったりと、正確な数字を出すことができませんでしたが、努力の積み重ね、継続する事が大切だと確信しました。

私たちが、毎年続けていることに、廃油の回収と廃油石けん作り、エコキャンドル作りがあります。「油で汚れた水に魚が住めるようにするには、汚れた水の20万倍の水が必要です。固めて捨てれば焼却処分しなければいけません」と、地球に優しい環境を守るため、廃油の回収を呼びかけてきました。そして、市民回収も定着しつつあります。

弥富市健康フェスタ2014の女性の会ECOコーナーでは、毎年招致している廃油からできたバイオディーゼル燃料で走るエコレーシングカートには60名を超える子どもたちが試乗しました。また、そこで回収した家庭から出る廃油回収も1日で500を超えました。

今、私たちが地球のためにできること。将来、子どもたちや孫たちが、安心して幸せに暮らせる「持続可能な社会」のために、少し我慢し、行動すること、そして継続すること。

エゴライフからエコライフへ！！

それが、将来を生きる子どもたちへのECOの架け橋となると信じて・・・。

## 地域に根ざした環境保全パートⅢ ～楽しみながら実践！繋がるエコライフの輪～

蟹江町婦人会

### 1 はじめに

蟹江町は6つの川がうねるように流れ、面積の1/4が河川という水郷の町です。その川の1つ蟹江川で行われる「須成祭」が、平成24年3月に国の重要無形文化財として指定され、今年3月にはユネスコ無形文化遺産の候補に選定されました。また、婦人会と協働している「蟹江川をきれいにする会」が河川の愛護活動に尽力したとして、日本河川協会から河川功労者表彰を受けたことは、川と共存し、水辺に育まれた私たちにとってはとても誇らしく、さまざまな団体と協働し取り組んできた「河川美化」を、あたりまえの活動として継続していくための、大きなモチベーションになると思います。

今年度も自分たちにできる活動として、行政・婦人会役員・婦人会OBで構成されている環境ボランティア部と話し合い、町の憩いの場として作られていながら雑草が伸び放題になっている水辺スポットの草取りをして、花を植えることにしました。

### 2 活動内容

#### (1) 蟹江川清掃と花植え

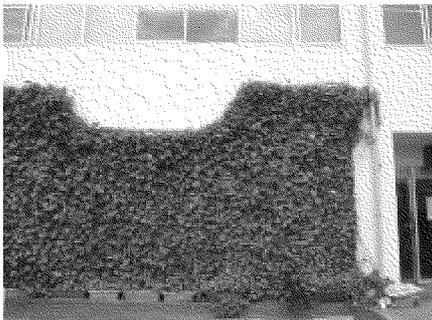


5月18日(日)舟入水辺スポット周辺の草取り、ゴミ拾いを行い、季節の花(マーガレット・マリーゴールド)を、ボーイスカウト・蟹江川をきれいにする会・行政・シルバー人材センター・舟入連区の皆さんと婦人会会員約50名が協働し、堤防の土手に植え込みました。次の日から婦人会会員とボランティア部員とで当番を決めて、毎日夕方に水やりに通いました。本当に皆さんに感謝です。犬の散歩を

している方や通りすがりの方から「ご苦労様です」と声を掛けていただいたことは大変嬉しく、やりがいを感じることができました。この季節は、雑草の成長も早いので「花が見えないほど草が伸びているよ」「早く草を取らないと花の方に根っこが伸びるよ」と皆さんからいろいろ教えていただき、草取りを2回実施しました。初回は、7月8日(火)午前8時半から10時まで行いましたが暑い日だったため、参加者の一部に気分が悪くなる方がみえたので、8月23日(土)に行った2回目は午前6時に始め、暑くなる前に切り上げようとしたのですが、この日は草取りが終わったとたん大雨になり、ずぶ濡れになって帰宅したことを覚えています。10月19日(日)も春と同じ皆さんで協働し、季節の花(コスモス・サルビア)を植えました。午後からは犬山市の「木曾川うかい」が開催され、イベントを見に来られた皆さんには、水辺スポットに咲くきれいな花も楽しんでいただけたのではと思っています

## <尾北ブロック>

### (2) エコカーテン作り



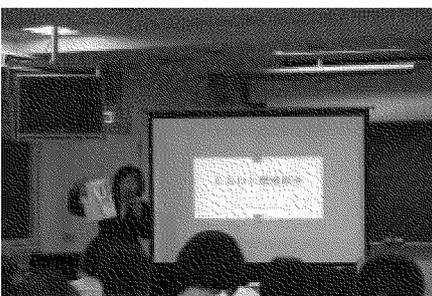
昨年、中部電力さんから頂いたゴーヤ・アサガオ・風船かずらの種から育てたグリーンカーテンはとても立派に成長してくれました。節電に繋がる夏の風物詩として定着してくれる事を願い、今回は昨年収穫した種からグリーンカーテンを育てることにしました。



以前と同様の手順で育てたのですが、8月の長雨のせいなのか、昨年ほどには成長してくれませんでした。写真はあさがおですが、節電に繋げるにはちょっと薄いかなと思います。シルバー人材センターの方に相談したところ、「あさがおの種類が違うのではないか」との指摘をうけました。葉が大きくふさふさになる品種があると聞き、確かに今回は色々な場所から収穫した種を混ぜたせいかもしれません。これに懲りず来年以降

も試行錯誤しながらでもエコカーテン作りを継続していただければと思います。

### (3) ESD と環境保全講演会



8月9日(土)愛知県生涯学習課課長補佐大石益美氏をお招きし、ESD(持続可能な社会づくりの担い手を育む教育)とは何か、環境保全との関わり、婦人会活動に繋がる価値観や考え方についての講演をいただきました。回覧を出し、一般の方にも幅広く参加していただけるよう、行政にお願いしていた事が良かったのか、会場は満席となりました。「ESDの説明が分かり

やすかった」「勉強になった」「出来る事から実行していきたい」「婦人会活動の話が聞けて良かった」等々、アンケートから反響の大きさが読み取れ、ESDについて参加者が、理解を深めていただけたのではないかと思います。

### 3 おわりに

町内では、グリーンカーテンを作る家が多く見られるようになってきました。「自分たちにもできることがある」と、2年前から始めた「地域に根ざした環境保全」活動も3年目を迎え、参加していただいた多くの皆さんの環境意識は、年々高まっていると感じ、ボランティアの輪も大きくなったと思います。

今後皆さんが、気負わず自然にエコライフを楽しんでいただけてくれることを願っています。

(藤田 由季)